

学校教育目標	○よく考える子 ○心豊かな子 ○たくましい子	ビジョン	【目指す学校像】	○特別支援教育を全校で進める学校 ○子どもも教職員も当たり前のことを当たり前出来る学校 ○子ども、保護者・地域、教職員が中神小でよかったと思える学校
			【目指す児童・生徒像】	○自ら考え、主体的に学ぶ子ども ○互いを尊重し思いやりのある行動ができる子ども ○心身ともに健康でたくましい子ども
			【目指す教師像】	○人権感覚を磨き子どもの自尊感情を高める教師 ○常に向上心をもち指導力向上に努める教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	取組の進捗状況	今後の方向性
確かな学力	基礎・基本を大切に し、分かる授業の実現 に努め、確かな学力の 定着を図る。	自ら学ぶ基本的な学 習習慣や学習規律の 定着を図る。	朝学習や学習への取 組み方など学び方を学 ぶ指導を行う。	4 全学級が具体的な取組を行っている	3.5	4 話をしっかり聞き、自らすすんで学習に取り組む児童が90%以上である。	2.6	・意欲的に学ぶ姿勢が育ってきているが、難しい問題だとあきらめてしまう。 ・話をしっかり聞けない児童がいる。 ・学習のきまりは共通理解が図られているが、時がたつと曖昧になる。	話を聞く観点を明確にする。 聞き方・話し方・姿勢の声かけを継続して行う。 スモールステップで児童が取り組みやすいようにする。 授業の導入で、興味関心を高める工夫を行う。 出来ていることを誉める。 目的をはっきり示す。
				3 具体的な取組を行っている学級が80%以上である。		3 話をしっかり聞き、自らすすんで学習に取り組む児童が80%以上である。			
				2 具体的な取組を行っている学級が70%以上である。		2 話をしっかり聞き、自らすすんで学習に取り組む児童が70%以上			
				1 具体的な取組を行っている学級が70%未満である。		1 話をしっかり聞き、自らすすんで学習に取り組む児童が70%未満である。			
		読む、書く、伝える、計 算する、考察する力の 育成及び定着を図る。	東京ベーシックドリルの 活用で、基礎・基本の 定着80%を目標に取り 組む。	4 全学級テスト実施率が100%である。	3.2	4 テストの平均点が80点以上である。	2.6	定着率は低い。基礎力の低さが明確である。 確実に定着している児童とそうでない児童の差が大きい。 上位層と下位層が多く、中間層が少ない。	継続していく。 数量関係の復習を行わせる。 定期的な復習プリントを行う。 授業の最初に復習プリントや既習事項の確認を行う。
				3 全学級テスト実施率が80%である。		3 テストの平均点が70点以上である。			
				2 全学級テスト実施率が70%である。		2 テストの平均点が60点以上である。			
				1 全学級テスト実施率が70%未満である。		1 テストの平均点が60点未満である。			
		調べ学習やまとめたこ とを発表する場を設定 する。	調べる学習やまとめたこ とを発表する場を設定 する。	4 全学級が計画を実施する。	3.6	4 児童全員が発表する場を学期に2回以上もつ。	3.5	社会・国語等、調べ学習を多く取り入れ、発表する場には慣れてきた。 発表の意欲が高く、工夫した発表ができる。	大きな声で発表できるように指導していく。 自分で設定した課題を解決する学習を取り入れる。 話形の指導を行い発表内容の質を高めていく。
				3 80%以上の学級が実施する。		3 児童全員が発表する場を学期に1回もつ。			
				2 70%以上の学級が実施する。		2 児童全員が発表する場を年に2回以上をもつ。			
				1 70%未満の学級が実施する。		1 児童全員が発表する場を年に1回もつ。			
豊かな心	互いに認め合い、支え 合う豊かな心を育成す る。	すすんであいさつをす る子を育成する。	あいさつが自主的に出 来よう取組を行う。	4 全学級が実施する。	3.6	4 しっかりとあいさつできる児童が90%以上である。	2.9	朝や帰りのあいさつはできている。自分からすすんであいさつしない子もいるが、自分からあいさつする子が増えてきた。 授業開始、終了時のあいさつも落ち着いてできるようになってきた。	自分から言えるように練習させる。 担任が意識してあいさつを行い良いお手本を見せる。相手によって態度を変えないように指導する。
				3 80%以上の学級が実施する。		3 しっかりとあいさつできる児童が80%以上である。			
				2 70%以上の学級が実施する。		2 しっかりとあいさつできる児童が70%以上である。			
				1 70%未満の学級が実施する。		1 しっかりとあいさつできる児童が70%未満である。			
		異学年交流の充実を 図る。	児童の自主性と異学 年交流のねらいが達成 できるよう指導を行う。	4 全教員が指導する。	3.9	4 取組に楽しく参加できた児童が90%以上である。	3.4	高学年は責任感、中学年・低学年は高学年への信頼や憧れなどを抱くことができている。年下の友達に対して優しく接することが出来ている。どうしたら下級生と楽しく活動できるか考え実践しようとしていた。異学年で交流することを楽しんでた。	感想を活かし次回への期待をもたせる。 児童が主体的に行えるように児童を中心に考えていく。 異学年交流の機会を多く設ける。
				3 80%以上の教員が指導する。		3 取組に楽しく参加できた児童が80%以上である。			
				2 70%以上の教員が指導する。		2 取組に楽しく参加できた児童が70%以上である。			
				1 70%未満の学級が指導する。		1 取組に楽しく参加出来た児童が70%未満である。			
		言語環境を整え、児童 の居場所となる学級づ くりを推進する。	道徳・学級活動を中心 に各教科等において、より よい人間関係を築くための 活動を実施する。	4 全学級が実施する。	3.6	4 学校が楽しいと思っている児童が90%以上である。	3.2	様々な児童と関わり合う活動や話し合い活動を積極的に取り入れた。 思いやりのある言葉を発する児童が多い。自分がされていやなことは人にしない児童が多い。実践できない児童も何人かいる。自分と違う意見を受け入れられない児童もいる。	表情や様子をよく観察する。保護者とよく連携する。 児童が学級で自分の居場所を感じられるように支援していく。
				3 80%以上の学級が実施する。		3 学校が楽しいと思っている児童が80%以上である。			
				2 70%以上の学級が実施する。		2 学校が楽しいと思っている児童が70%以上である。			
				1 70%未満の学級が実施する。		1 学校が楽しいと思っている児童が70%未満である。			
健やかな体	生活習慣を見直し、丈 夫な身体とたくましい 心を育成する。	生活習慣を見直すと共に、 基礎体力の向上を 図り、食育・健康教育 を推進する。	体力向上及び運動能力向上 に向け、サーキットレーニン グなどの取組にすすんで取 り組めるよう指導する。	4 全教員が指導する。	3.7	4 自らすすんで取り組む児童が90%以上である。	3.2	中神サーキットを実施し、様々な動きに取り組みさせている。運動が苦手な児童もいる。休み時間には積極的に外に出て遊ぶ児童もいるが、教室からなかなか出ない児童もいる。	運動量を確保する。学級遊びを計画しすすんで外に出るようにしていく。体力テストの結果を受け、サーキットの内容を工夫していく。大縄など目的をもって取り組める工夫を行う。
				3 80%以上の教員が指導する。		3 自らすすんで取り組む児童が80%以上である。			
				2 70%以上の教員が指導する。		2 自らすすんで取り組む児童が70%以上である。			
				1 70%未満の学級が指導する。		1 自らすすんで取り組む児童が70%未満である。			
		食に関する指導を計画的 に行い、毎月の食育 の日の前後に残さず食 べることを指導する。	食に関する指導を計画的 に行い、毎月の食育 の日の前後に残さず食 べることを指導する。	4 全教員が指導する。	3.4	4 残菜率の平均が5%以下である。	2.6	バランスよく食べるように指導している。残菜を減らす取組を行っている。食の細かい子が多く残す児童も多い。	適切な量を配り完食体験を増やしていく。家庭とも連携を取る。健康と食事の大切さを伝えていく。配膳の仕方や食事のマナーなど低学年から繰り返し指導を行う。
				3 80%以上の教員が指導する。		3 残菜率の平均が8%以下である。			
				2 70%以上の教員が指導する。		2 残菜率の平均が10%以下である。			
				1 70%未満の学級が指導する。		1 残菜率の平均が10%以上である。			
		オリンピック・パラリン ピック教育を通して運 動・スポーツへの興味・ 関心を高める。	オリンピック・パラリン ピック教育を通して運 動・スポーツへの興味・ 関心を高める。	4 全学級が実施する。	2.9	4 オリンピック・パラリンピックやスポーツに興味・関心をもつ児童が90%以上である。	2.5	2020に向けて興味・関心をもつよう時事的な話題を話している。関心度に差がある。普段からスポーツをしている子とそうでない子の差が大きい。	オリンピック・パラリンピックに関する事柄を見付けながら、学習と関連付け、興味・関心をもたせていく。オリパラについて話す機会を増やす、道徳や体育で計画的に取り組む。オリパラノートの活用を図る。
				3 80%以上の学級が実施する。		3 オリンピック・パラリンピックやスポーツに興味・関心をもつ児童が80%以上である。			
				2 70%以上の学級が実施する。		2 オリンピック・パラリンピックやスポーツに興味・関心をもつ児童が70%以上である。			
				1 70%未満の学級が実施する。		1 オリンピック・パラリンピックやスポーツに興味・関心をもつ児童が70%未満である。			
輝く未来	保護者・地域との連携 を深める。	地域を素材とした学習や 伝統文化の体験を通し て、郷土昭島に対する愛 着や誇りを育てる。	地域人材を活用したり 伝統文化の体験を取り 入れる。	4 全学年が地域人材や伝統文化の体験を行う。	3.3	4 楽しく活動できた児童が90%以上である。	3.2	町探検の学習を通して地域の良さを学んだ。蚕の飼育を通して中神に伝わる伝統文化を知ることが出来た。地域の方の協力を得て、米作りを行っている。	昭島に関わる学習を取り入れていく。伝統文化に触れる機会を計画的に行う。
				3 5つの学年が地域人材や伝統文化の体験を行う。		3 楽しく活動できた児童が80%以上である。			
				2 4つの学年が地域人材や伝統文化の体験を行う。		2 楽しく活動できた児童が70%以上である。			
				1 3つの学年が地域人材や伝統文化の体験を行う。		1 楽しく活動でき児童が70%未満である。			
	家庭学習の習慣化を 図る。	家庭学習の手引きを配 布したり、e-ライブラ リーを説明したりして家 庭学習の定着を図る。	4 全学級で活用について指導する。	2.8	4 90%以上の児童が家庭で決まった時間勉強している。	3.2	毎日宿題を出し、定着してきている。特定の児童が忘れてくる。 eライブラリーの活用が出来ていない。	家庭との連携を図る。学年×10分を目安に家庭学習が定着するよう協力と呼びかける。eライブラリーの活用を図る。放課後教室や土曜補習の活用を呼びかける。	
			3 80%以上の学級で活用について指導する。		3 80%以上の児童が家庭で決まった時間勉強している。				
			2 70%以上の学級で活用について指導する。		2 70%以上の児童が家庭で決まった時間勉強している。				
			1 70%未満の学級で活用について指導する。		1 70%未満の児童が家庭で決まった時間勉強している。				